

# DU WATCH

劣化ウラン研究会ニュースレター 第16号 (2006/3)

-----[はじめに]-----

国際行動センター(インターナショナル・アクション・センターIAC)による最新のビデオ「ポイズン・ダスト：もうひとつの米国の戦争犯罪 ペルシャ湾岸における放射能兵器の使用」の紹介です。

イラク戦争以後のウラン兵器の現状は、ジェラルド・マシューさんらニューヨーク州兵の被曝の物語に象徴されますが、イラクの市民にどのような被害が出ているのかは、依然として占領が続く混迷した状況の中で、まだ世界が知るところとなっていません。

一方、イラク派遣兵士のウラン汚染の実態は、湾岸戦争症候群と類似した病に倒れる兵士が続出する中で徐々に知られるようになってきました。

マシューさんを取材しニューヨーク・デイリーニュースに記事を執筆したジャーナリストのファン・ゴンザレス氏は、この現状を見て「巨大な、あまりにも巨大なカタストロフィーがこのような兵器の使用による低レベル放射性物質の汚染となってこの惑星上に広がり続けている。今すぐウラン兵器を廃絶しなければ、地球全体が汚染されてしまう」と警告しています。

## 劣化ウラン被害告発記録ビデオ「Poison DUst」

### (ポイズン・ダスト 毒の塵)

2006. 2. 13

野村修身

### はじめに

アメリカの反戦団体、国際行動センターより劣化ウランの残虐性を告発した記録集がDVDの形で世の中に送り出されてきた。表題は「Poison DUst (ポイズン・ダスト)」。発行はピープルズ・ビデオ・ネットワーク、販売はレフト・ブックス・コムである。この反戦団体は、元アメリカ合衆国司法長官ラムゼー・クラークが創立したことで有名である。同団体は1991年の湾岸戦争における劣化ウラン被害を告発した記録集ビデオを「Metal of Dishonor (メタル・オブ・ディスホナー)」と表題して送り出しているが、このDVDはその続編と位置づけられる。

DVDの収録時間は約90分であり、最初の35分ほどが2001年のイラク戦争関連を中心

とした記録であり、その後20分ほど湾岸戦争を中心とした記録が続き、その後は劣化ウランの歴史などとなっている。全編を通じて、アメリカ政府の戦争犯罪を告発している。

2001年のイラク戦争における実写には圧倒される。大統領宮殿を砲撃している映像(写真1)には、宮殿に当たった砲弾が、まるで線香花火のようにはじける様子が見とれて取る。このような着弾状態を示すのは劣化ウラン弾であることは明らかである。この映像を見ただけでも、甚大な劣化ウラン汚染が生じていることが想像できる。

冒頭に出演するのは、ジャニス・マシュー、右手の無い我が子を抱きながらカメラの前で告発を行う。夫が劣化ウランに被曝した結果、我が子に異常が生じたと主張している。彼女の夫はイラク戦争に派遣された軍隊に所属していたので、イラ

ク戦争に参加したということにはなっているけれども、実際の戦闘を行ったわけではない。戦闘地域を遠く離れたクウェートの近くで輸送に従事しただけである。それなのに、検査結果によれば、劣化ウラン被曝を受けたことが証明された。クウェート近郊は1991年に勃発した湾岸戦争で、戦闘が行われた地域である。言い換えれば、湾岸

イラク戦争に参加した兵士としては、オーガスティン・マトスも出演する。彼ら3人は前線の戦闘を行ったわけではなく、後方支援業務であったにもかかわらず、ひどい頭痛や知覚障害などの様々な疾患に悩まされている。戦闘を行った兵士はさらに強い被曝を受けたのではないだろうか。彼らは劣化ウランの危険性について、事前に全く知らされていなかったと、口をそろえて証言した。



戦争での戦闘では、大量の劣化ウラン弾が使われ、今でも強く汚染されていることを証明した結果となった。

写真1 この映像は2003年のイラク攻撃の際に大統領宮殿を含む政府施設を爆撃する様子である（CNN）

## 被曝兵士の証言

ジャニスの夫ジェラルド・マシューは証言する。軍の指示で私の尿を提出したのに、いつまでたっても結果を知らせてこない。問い合わせたら、あなたの尿は受け取ってないという。軍は提出すれば検査しますといているが、信用できないので、アサフ・ドラコビッチ博士に頼んで調べてもらい、その結果、劣化ウラン被曝していることが分かった。軍は、尿検査の結果、劣化ウラン被曝を知ったので、私に知らせなかったのだろうか。

軍の警察要員としてイラク戦争に関わったレイモンド・ラモスは、その体験から、サマワに派遣されている日本軍やスペイン軍が、劣化ウラン被曝を避けられないだろうと断言する。何故なら、2001年の戦争時にはたいした戦闘はしなかったものの、1991年の湾岸戦争時には大量の劣化ウラン弾がばらまかれた地域であるからだ。

## イラク汚染の現実

1991年の湾岸戦争では375トンの劣化ウランがイラクに打ち込まれた。ところが、2004年のイラク戦争では2200トンが使われた。すでにイラク国内では、ガンなどの疾患で多くの人が苦しんでいる。今後、どのような被害が現れるか、想像すると恐ろしい。

地球上では通常の放射線量は1年あたり約100ミリレム（1ミリシーベルト）である。ところが、イラクの汚染地は1時間あたり200ミリレム（2ミリシーベルト・単純計算すれば17000倍以上）という信じられない値が計測され、とても人間が住めるようなところではない。1990年から2000年の間に、子供の疾病率は400%に増加したという。

環境学者のロザリー・バーテルや核物理学者のミチオ・カクは次のように解説する。『劣化ウラン弾が標的に当たるとすさまじい高温で燃焼し、細かい塵となって飛び散ります。人体に取り込まれると排出されるのに長い時間がかかり、肺や肝臓などの臓器に放射線被曝をし続けます。劣化ウラン弾の主成分であるウラン238は半減期は45億年ですから、人間の寿命に比べたら、永久的に強さは変わらないと言えるでしょう。』

政府に劣化ウラン対策を期待するのは「狐に鶏小屋を管理させる」に等しいことと、法律学者のヘレン・カルディコットは切って捨てる。

1991年の湾岸戦争帰還兵も次々に立ち上がって証言をおこなっている。例えば、キャロル・ピコーは看護兵として参加して、記憶障害や排泄障害などの疾患に未だに苦しんでおり、数十種の薬品が未だに手放せない。

被害を受けたのはアメリカ軍の兵士だけではな

い、カナダ兵としてイラク戦争に参加したブランドン・ハーヘイも証言し、何の影響も受けないとされていたのにこのありさまだと憤懣やるかたない。

証言は戦争に参加した兵士だけではない。元陸軍劣化ウランプロジェクトの責任者ダグラス・ロッキーも、いかにアメリカ軍が劣化ウランの毒性を隠蔽しているかを告発している。

イラクは国連が経済制裁を行い、その期間に「オイル・フォー・フード・プログラム」をイラクに強制した。これは、イラクの石油を輸出した分だけ食料の輸入を認めるという方策である。この方策は厳しい制限が架せられていて、十分な食料が供給されたとは言い難い。特に、白血病などの疾患にかかった子供においては、栄養不良により、助かるべき子供が多く死んだと、当時の国連責任者デニス・ハラディは語っている。

劣化ウランの被害にあっているのは、イラクだけではない。例えば、実験場に使われたビエクスでは、貫通弾が作った大きなクレーターがあり、深刻な汚染を引き起こしていると、軍による毒物汚染を告発しているジョージ・フェルナンデスは語る。

劣化ウランは原子力利用の残りかすであるが、その貯蔵量は天文学的な数値となっている。劣化ウラン貯蔵施設の映像では、見渡す限り劣化ウランを封入した大きな容器が続いている。(写真2)

劣化ウラン弾の原料は無尽蔵にあると言っても過言ではない。また、劣化ウラン弾に多くの種類があることに驚かされる。(写真3)

## 被爆（曝）被害者の系譜

劣化ウランの歴史は原子力開発の歴史そのものである。開発の過程では多くの被（曝）爆者を生み出してきた。アメリカの原爆実験では、一つの部隊が立ち会わされて、本人が意図せずに被曝をさせられてしまった。彼らは「アトミック・ベテラン」と呼ばれ、未だに後遺症に苦しんでいる。このDVDでは3人の証言を収録している。彼らはしほり出すように語る、我々は「人間モルモット」にされたんだ！。

アメリカ合衆国政府の戦争犯罪はそれだけではない。このDVDに収録されているのは、ビキニ環礁における水爆実験の映像やベトナム戦争における枯れ葉剤作戦の映像もあり、アメリカ合衆国のおそれるべき犯罪行為を告発している。ナパーム弾に背中を焼かれた少女が、はだかで泣きながら逃げてくる。ベトナム帰還兵は証言する、どこにアメリカの正義があるんだ！。

劣化ウラン被害は韓国にも存在し、持続的な反対運動が行われている。例えば、梅香里（メハンリ）の射爆場で劣化ウラン弾が使われている可能性がある。

最後の場面では道一杯を埋め尽くすパレードである。参加者の持っているプラカードには「NO HOPE BUSH（ブッシュに希望無し）」などと、思い思いの主張がしるされている。踊りながら行進している人もいる。ドクロの扮装をしている人もいる。本当の情報を知ること、みんなで立ち上がり、劣化ウラン廃絶に向けて確実に進んでいくことが出来る。政府は劣化ウラン兵器が秘密兵器と思っているかもしれないが、民衆にとって「情報が我々の秘密兵器」なのである。

Portsmouth Depleted Cylinder Storage Yard



---

---

# ニュースクリップ

---

---

## 琉球新報より

### ハワイで劣化ウラン弾見つかる 米軍の演習場内に破片が15個

2006年1月10日

ワシントン発の1月9日付の琉球新報記事（滝本匠特派員）によると、ハワイ・オアフ島にある米軍スコフィールド・バラックス基地の実弾演習場で昨年、劣化ウラン弾の破片が見つかったということです。米軍はこれまで、ハワイでは使用していないと説明してきたにもかかわらずこういう事態となり、環境団体や先住民団体が軍に対し「無責任だ。完全なる説明を求める」と非難の声を上げている。

琉球新報がこの記事を積極的に取り上げる訳は、劣化ウラン弾をめぐって米軍鳥島射爆場への誤射事件も鳥島からの改修は途中で放棄され未解決だとの立場（日本政府は旧科学技術庁の現地調査で汚染は無く解決済みとしている）であると同時に、在沖米軍基地にも劣化ウラン弾が貯蔵されていることもあり、米軍の武器管理のずさんさを示すものだからだ。

この事件発覚の発端は、昨年8月、基地内の複合射撃訓練場の拡張工事に伴い着弾地の不発弾除去を行っていた業者が、直径約2・5センチ、長さ約10センチの劣化ウラン弾の尾部15個を発見した。これについて地元運動家からの問い合わせに対し、米陸軍が認めた。地元紙ホノルル・スター・ブレティンなどが報じている。

米陸軍第25歩兵師団が1960年代に訓練で使用された劣化ウラン弾の破片だと説明しているという。

地元の平和団体アメリカン・フレンズ・サービス・コミッティーのカイル・カジヒロ・プログラム部長は、これまで米軍側はハワイでは一切劣化ウラン弾を使用していないと発表していたのに「米陸軍は劣化ウラン弾の使用について把握していないか、あるいは故意に市民を欺いたかだ。どちらにしても大変な問題だ」と軍を批判する。

軍は、発見された劣化ウラン弾は「低レベル放射能で危険はない」としている。陸軍ハワイ守備隊のハワード・キリアン司令官は「陸軍は決して

故意に欺こうとしたのではない」と釈明し、さらに「そこ以外では存在しない」と強調したという。

劣化ウランがずさんに管理され、あちこちで射撃訓練などで拡散していることは、以前から指摘されてきた。1950年代や60年代は、米国内の実弾射撃訓練場でも大量に屋外で使用されており、同時期に海外の射爆場などで使われていたとしても不思議ではない。むしろ、頑なに使用を否定しているとしたら、そのほうが恣意的なものである。

## 四国新聞 社会面より

### 「薬剤供給、援助続けて」

### イラク人医師が広島で講演

2006年2月28日

イラクの「バグダッド中央子ども教育病院」の小児がん科部長、イブラヒム・ナシール医師が2月28日に広島市で講演し、劣化ウラン弾による健康被害が指摘されている白血病の子どもの写真などを示しながら「薬剤の供給、医師の研修など援助を続けてほしい」と参加者に訴えた。

ナシール医師は講演の中で、イラクで白血病にかかった子どもは55%以上が3年以内に死亡していると報告。最新の医療機器や輸血用血液の不足、治安の悪化のほか、貧困のため定期的な通院が難しいことなどを挙げ、イラクでの治療の難しさを強調した。

ナシール医師はイラクに医薬品を届ける活動をしている「日本イラク医療支援ネットワーク」（JIM-NET、本部・長野県松本市）が、白血病の治療に有効とされる臍帯血（さいたいけつ）バンクをイラクで設立する準備のために招へいた。

JIM-NETやナシール医師の調査によると、イラク全土で年間約1500人の新たな小児がん患者が発生していると考えらるが、イラク国内では小児がん専門病棟をもつ4病院の床数は全部足しても150にもならないという。そのため、ヨルダンやクウェートで治療を受ける子どもたちもいるが、経済的に余裕のある人々に限られる。

基本的な薬は政府の保健省から支給されることになっているが、実態は必要量の半分もなく、抗がん剤や抗生物質などは各国NGOからの寄付で賄われているのが現状。輸血セットなどの機器も不足しており、小児がんの中でも特に多い白血病の治療率、生存率は日本などと比べてあまりにも

低い。

JIM・NETの現地駐在として博士に協力してきた井下俊医師は「生まれたときにへその緒に流れている血＝臍帯血を捨てずに冷凍保存し、白血病になったときに移植すれば、助かる率が高くなる」と語る。それに、スタッフの技術習得、冷凍庫などの機器の導入、バンクの情報ネットの整備などが現在の課題という。

同日、2月28日、イタリアでは劣化ウラン被曝により白血病となって死亡したイタリア兵について「バルカンなどでPKOに参加したイタリア兵の病死とDUの因果関係に関する上院調査委員会報告書」が発表されたが、あまりにいい加減なものであったため、国会前に被害者や家族・遺族たちが集まり、抗議行動が行われたという。

#### ◆イブラヒム・ナシール医師の紹介

「バグダッド中央子ども教育病院」小児がん科部長。

イラク唯一の独立した小児病院であるセントラル小児教育病院の創立にもかかわり、ガンの専門家としてだけではなく小児科医として、サダム政権下から非常に大きな働きをしてきた。湾岸戦争後の経済制裁期からイラク戦争、そして今に至るイラクの医療現場をつぶさに見てきた。

バグダッド大学医学部を卒業後、1970年代の初めにはアメリカやカナダで小児がん治療を研究。

ジェラルド・マシューさんたち8名の帰還兵士と家族が米陸軍省を相手取って起こした「劣化ウラン被曝訴訟」に対して、米国政府は「棄却申し立て」をしてきたそうです。いわば「門前払い」を求めての答弁書です。書証を3月10日に提出し、裁判所の判断を待つ状態となっているそうです。

これに関連し、劣化ウラン被曝に関する科学論文がいくつか公表されているということで、紹介します。

まず、「NO DU ヒロシマ・プロジェクト」の嘉指信雄さんからの情報をお伝えします。

#### ラットによる劣化ウラン吸入実験

ラット（実験用マウス）を用いた劣化ウラン微粒子吸入実験に関する情報が、科学ジャーナルのToxicological Sciences 89号のインターネット版

に、2005年10月12日に発表。

概要は次の通り。

劣化ウラン（DU）は、原子力産業から生じる放射性重金属であり、様々な形で軍事的に応用されている。ウランの吸入は、肺における線維症と腫瘍形成を引き起こしうる。

こうした病理学的影響をもたらす分子過程に関してはあまり知られていないので、吸入によりDUに被曝したラットを用いて、遺伝子毒性と炎症性の観点から研究を行った。

私たちの結果が示すところでは、吸入によるDU被曝は、気管肺胞洗浄（BAL）細胞におけるDNA鎖の切断、そして、肺細胞における炎症性サイトカインの発現およびヒドロペルオキシドの生産の増加を引き起こす。このことは、DNA損傷は、部分的には、炎症過程および酸化ストレスに由来することを示唆している。

こうした影響は、吸入量と関係しているものの、ウラン化合物の水溶性如何には関係なく、また、吸入のタイプと相関している。反復して吸入させると、BAL細胞、また腎細胞においても、作用が増強されるようである。中性条件におけるコメットアッセイの結果、BAL細胞におけるDNA損傷は、部分的には、二本鎖切断によるものであることが明らかとなった。このことは、生体内におけるDUの遺伝子毒性には放射線が関与していることを示唆している。生体内における、これら全ての結果は、DU吸入の病理学的影響に関する、より良い理解に貢献するものである。（概要試訳：振津かつみ・嘉指信雄）

[注1]：BAL細胞というのは、気管にチューブを挿入して水（通常は生理食塩水）を入れて洗浄し、回収した洗浄液に含まれる細胞のことです。剥離した肺胞、気管の上皮細胞や、誘導された炎症細胞が含まれています。ヒトでも気管鏡の検査をしてこのような肺胞洗浄細胞を回収し、肺疾患の診断を行うことがあります。（振津）

[注2]：「コメットアッセイは、1984年に開発された細胞障害検査であり、個々の細胞におけるDNA損傷を検出する技術として放射線研究以外にも紫外線や酸化ダメージ、薬剤の研究に用いられています。」（放医研ニュースより）

[http://www.nirs.go.jp/report/nirs\\_news/200507/hik03p.htm](http://www.nirs.go.jp/report/nirs_news/200507/hik03p.htm)

# 劣化ウランを含む ウラン・プルトニウム 被曝治療に関する 放医研調査報告

も多いが、主にその動機面、そしてアプローチ手法を読み取っていただきたいと思うので、以下にその概要を掲載する。

(劣化ウラン研究会 山崎 久隆)

## 内部被ばく医療に用いる

## 体外除去剤研究と臨床適用に向けて

ウラニウム被曝の治療（体外排出）方法について、放射線医学総合研究所（放医研）より、ラットを使った実験レポートが出された。

かなりの大量摂取（暴露）による被曝をも想定したものであり、劣化ウラン兵器による被害にも効果を期待している点が、従来の研究とは一線を画すものである。

[http://www.nirs.go.jp/report/nirs\\_news/200601/hik06p.htm](http://www.nirs.go.jp/report/nirs_news/200601/hik06p.htm) において読むことが出来るが、原子力産業において今後もウランやプルトニウム被曝が増えるであろうとの想定の下、ウランなどのアルファ放射体を対外排出する方法を研究している。

もちろん、これが役に立つことがない世の中が望ましいことはいうまでもないが、現実にはウラン汚染が続くイラクへの支援として役に立つ可能性があると思う。米国などの帰還兵士にも朗報となる可能性もある。

さて、ここで考えなければならないのは、これまで欧米特に米国において劣化ウラン被曝の影響については、科学的アプローチがほとんどろくな取り組みもされてない現状を考慮すべきであるということである。

その影響は、日本の研究機関にもあったといわざるを得ない。

ウランが危険物質であることは自明のことであり、そんなことをあえて議論する必要があるということ自体が、ウラン汚染が政治的に利用されていることを物語る。

米国は、在日米国大使館のホームページを通じ、あたかも何の影響もないかのごとくに記述するし、WHOも、ウランの危険性を主張するベイバーストック博士の主張を一切受け付けなかった。そのような態度に比べれば、日本の放射線医学総合研究所の姿勢は貴重なものに見える。

さらに、研究を始めた動機付けには、まさしく劣化ウラン弾による被曝を想定したものが含まれているのである。

科学レポートであるため、一般には難しい部分

放射線事故に伴う内部に摂取されたプルトニウムやウランの影響リスクを低減するための体外排泄除去剤の現状と臨床適用を目指した放医研のウラン除去剤の研究の成果。

日本の原子力発電による電力供給率は増加し続け、新たな核燃料サイクルやMOX燃料使用が推進されている。その前提として、決して事故を起こさない管理責任の徹底、人体に対する安全研究、被ばく医療技術と体制の充実の努力は不可欠である。現在の原子力分野の重点課題は、安全から安心の信頼性を得ることである。原子力発電に使用されるプルトニウム (Pu) やウラン (U) は、体内に摂取されると強い毒性を発現する。Puの毒性は $\alpha$ 放射線の長期被ばくによる発癌リスクの増加、Uは化学毒性による腎臓の急性機能障害と長期的な放射線影響である。残念ながら過去の原子力事故では外部被ばくだけでなく、治療が必要な体内摂取事故が発生している。内部被ばくのリスク低減および回避の手段は、体内に摂取されたPuやUを、できるだけ早く体外へ排泄する以外にはない。この治療に用いるのが放射性物質の体外排泄促進作用がある薬剤（以下、除去剤）である。最近の放射性物質除去剤の研究領域では、原子力分野の事故だけでなく、テロ使用の可能性、環境汚染に伴う影響とその浄化、既存除去剤の見直しと応用、新化合物の開発、臨床適用の工夫などの様々な動きがある。

このような動向を背景に、PuとUの体外除去剤に関するレビューと、放医研におけるUの除去剤研究の成果を併せて述べる。

有効な除去剤を入手するには、いくつかの方法がある。第1は、PuやUと強力な結合をする合成化合物の開発（合成、除去効果と臨床前試験など）で、時間と費用がかかるが正攻法のアプローチ。第2は、金属中毒疾患の治療薬の応用、除去効果は第1の化合物よりやや劣るが人への適用に近い。第3

は自然産物から除去効果のある物質を探索する方法、薬物としての安全は高いが、除去効果は小さく、長期治療には有用とそれぞれ一長一短がある。

## 【中略】

最近の除去剤研究の関心はUに移行している。ウランの除去剤研究は、1960年以前から化学毒性が強いことは知られていたが、比放射能が低い、DTPAがUの除去にも効果があるとの誤認識の理由で最近まで進んでいない。U除去剤の開発の動機は、1990年代の湾岸戦争以降に使用された劣化ウランの弾片が、体内に残る退役軍人や汚染された地域住民の健康影響調査結果から化学毒性が非常に強いことが再認識され、さらにUの生活環境中の存在やテロによる使用の可能性が加わったことなどがあげられる。

Uの除去剤としては、まず効果は低い臨床使用ができるNaHCO<sub>3</sub>が先行、その間に実験的に高い有効性が認められているLIHOPOと、我々が上海薬物研究所との共同研究で進めているCBMIDAが続き、そして最近ではEHBPも注目されている。CBMIDAは現在最も高いU除去効果が認められるが、実験段階にある。EHBPは骨粗鬆症の治療薬としてすでに認可を受けている大きな利点があり、第2の方法に分類される。同様に、Li(Deferiprone)はthalassaemia(地中海貧血症)の治療薬であるが、PuやUの除去だけでなくフリーラジカル消去作用による防護効果も示唆されている。今後U除去を目的とした投与量や方法など臨床応用の試験が必要であるが、緊急被ばく医療への早い適用が期待できる。

## 劣化ウランの拡散

### イギリスで放射能値が増大!?

#### 劣化ウラン飛来か

イギリスのクリス・バズビー博士と環境保護団体グリーン・オーデットは、2006年1月、イギリスのバークシャーにあるオルダーマストーン核兵器製造工場で放射線モニターのフィルターから、通常の4倍に当たるウラン濃度を測定したと発表した。

このニュースは2月19日付のサンデータイムズなどに紹介された。

空気中のウラン濃度が、イラク戦争冒頭の「衝撃と畏怖」爆撃作戦の開始後に通常の

4倍の高レベルに跳ね上がり、作戦の終了とともに元に戻ったという研究報告は、「イラク戦争でのウラン兵器の使用がヨーロッパを汚染したか？イギリス、バークシャーのアルダーマストーン核兵器製作所の測定からの証拠」という表題の論文としてクリス・バズビーとサオイズ・モーガン両氏の名で発表されている。

バズビー博士はECRR(放射線リスク欧州委員会)のメンバーでもある。

報告によれば、集塵フィルターは二週間に一度測定されているが、イラク攻撃が始まった2003年3月20日を含む「3月13日から27日」フィルターに4倍の濃度のウランが検出された。さらにオルダーマストーンから15キロ離れたレディングでは、環境庁に通報しなければならないレベル(1000nbq/m<sup>3</sup>・一立方メートル当たり1マイクロベクレル)を2度も超えるほどの濃度に達しているという。

これが意味することは、バズビー氏によれば「この攻撃でヨーロッパ中がウランにより汚染されたと考えなければならない」ということになる。

大規模攻撃が終わったとされる4月以降は、大きな上昇は見られていない。いやそれどころか、これまで98年4月から2003年11月までの期間のデータが公表されているが、通常の値を大きく超えたのは、このときと2002年4月の2回しかないという。そして2002年4月とは、アフガニスタン攻撃の時のトラボラ地区の爆撃の時期に相当するのである。

英国政府は当然、これがイラクやアフガニスタンから来たものであると認めない。

英国防省のエマ・キャシディ報道官は「それは自然の発生源が原因であって、健康上の懸念を引き起こす水準ではない。」あるいは「たぶん近所の原発からやってきたのだろう」しかし劣化ウランが何十マイルも飛ぶことは、既に知られていることである。

バズビー氏が指摘するとおり、これだけ遠くの英国にまでウランが届いたということは、イラクや周辺に住む人々にとって極めて危険な状態にあることが重大なのである。

# 本の紹介

## 世界は変えられる

J C J 日本ジャーナリスト会議

市民メディア賞受賞

TUPが伝えるイラク戦争の「真実」と「非戦」

TUP: Translators United for Peace

(平和をめざす翻訳者たち)

定価 1800 円 + 税 四六判 上製 240 ページ

ISBN4-8228-0480-1

## 世界は変えられる II

—戦争の被害者って? 加害者って?—

TUP: Translators United for Peace

(平和をめざす翻訳家たち)

定価 1800 円 + 税 四六判 上製 288 ページ

ISBN4-8228-0489-5

## イラク占領と核汚染

森住 卓 = 写真・文

A 5・160 ページ (写真 96 ページ / 文章 64 ページ)

2005 年 8 月 6 日 発行

本体価格 2000 円 ISBN4-87498-347-2

米英軍のイラク攻撃は、イラクの人々に何を  
もたらしたのか!? イラク戦争開戦前夜から占  
領下を含め通算八回、イラク各地を取材。

軍事占領と劣化ウラン弾、イエローケーキな  
どによる放射能に苦しむ人々の姿を、鮮烈な写  
真と文章で伝えるフォトドキュメント!

<http://www.morizumi-pj.com/>

## 「放射能兵器・劣化ウラン

### —核の戦場・ウラン汚染地帯」

劣化ウラン研究会編、技術と人間社発行

2003年3月 定価 2500 円

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 3-16

TEL: 03-3260-9321

FAX: 03-3260-9320

「ボクは死ぬんだ。死んでしまうのだ。」イラクの小児  
病棟では連日、血を吐きながら子どもたちが死んでゆ  
く。劣化ウランは史上最悪の大量殺りく兵器である。  
この兵器を使用しているかぎり、人類だけでなく、地  
球上の生きとし生けるものに未来はない!

<主要目次>

第1章 危険な劣化ウラン弾

第2章 劣化ウランの軍事転用

第3章 核燃料サイクルと劣化ウラン

第4章 身近にあらわれる劣化ウラン

第5章 劣化ウランおよび劣化ウラン兵器

廃絶運動

<著者紹介> (50音順)

伊藤政子 アラブの子どもとなかよくする

会代表

新倉修 青山学院大学法学部教授

野村修身 電磁波問題市民研究会代表

藤田祐幸 慶応義塾大学物理学教室助教授

森住卓 フォトジャーナリスト

矢ヶ崎克馬 琉球大学理学部教授

山崎久隆 劣化ウラン研究会代表

劣化ウラン兵器を

造らせない 持たせない 使わせない

## 劣化ウラン研究会

〒176-0002 東京都練馬区桜台1-3-5 野村方 TEL: 03-3238-9035 (たんぽぽ舎)

E-mail: [zt4h-ymsk@asahi-net.or.jp](mailto:zt4h-ymsk@asahi-net.or.jp) (山崎) URL: <http://www.jca.apc.org/DUCJ/>

入会方法: 通信欄に住所・氏名・電話番号・Eメールアドレスを明記して、

年会費 (個人 2000 円・団体 4000 円) を下記口座へお振込みください。

郵便振替口座 00100-2-155130 劣化ウラン研究会